

▶ 市長は選挙公約に掲げた人事制度改革に取り組むべきです！

今村市長は、市長選挙の最終公約の1つとして「公務員労組の圧力を排除し、公正でスリムで効率的な行政運営を実現する」という内容を掲げました。しかし市長就任から2年半が経過したにも関わらず、この公約に掲げた取り組みを進める気配がありません。それどころか**市長は自身が議員時代には痛烈に批判していた清掃職員の採用を、昨年の10月に再開しました。**また議会においても『行政需要の増大に対応するため、他の部署でも職員数は増やしていきたい』とするなど**公約と逆行する考え**を示しています。

もちろん私は職員採用全てを批判するわけではありません。例えば昨年12月定例会では「市消防局の現在の職員定数を増やす議案」が諮られました。総務省消防庁が制定した「消防力の整備方針」に基づいて算定された基準人員650人に対して、本市の消防職員数がこの内容については充足率65.5%と著しく低く、阪神・丹波地域の10の消防本部の中でも最下位となっており、定数を増やして消防・救急・救助・予防の各業務の専従化・高

▶ タバコ発言や女性議員への侮辱発言について市長は謝罪すべきです！

11月27日に行われた「中高生30000人の夢project」という会で、今村市長はこどもたちに以下のような内容の話をしたそうです。

『**中高生だったころの私に必要な「居場所」は、授業を抜け出してタバコが吸えて楽器が弾けるところ、でした。(中略)私たちは鍵を盗みだし、合鍵を造りました。それで私たちは自由にタバコが吸えて楽器が弾けました。でも、この自由を継続させるためには、一線を越えないことが重要でした。(中略)一線を越えない範囲で、これまで「無理」と思っていた範囲を破らなきゃ。それが若いことの特権。』(今村市長ブログより抜粋)**

市長がこどもたちに伝えたいことの例えがなぜ喫煙行為や窃盗行為である必要があったのか全く理解できません。今回の問題発言は犯罪行為を助長していると誤解されかねない内容であり、**教育現場の最高責任者である市長としてあってはならない発言**です。さらにこの発言について議会で指摘した女性議員のことを、自身のブログで『**ピンクのダサいスーツに黒縁眼鏡で「お下品ザマ**

度化を図ることで市民が安全で安心して暮らすことができる環境を整えるという観点から賛成しました。

一方で西宮市の財政は今後
◆稼働年齢層の減少に伴う市税収入の減少
◆高齢化の進行に伴う医療・福祉・介護等、社会保障関係費用の増大
◆公共施設・道路・橋・上下水道管等の更新補修等老朽化対策に必要な費用の増大
等状況の悪化につながる要因が多数存在します。また市が今年8月に作成した「西宮市の決算の概要～平成27年度版～」によると、**市民1人が負担する市職員の人件費は6万8507円と、類似団体平均の5万7686円を20%近く上回ります。**こうした状況を考慮すれば、**今後の職員総数の増加には慎重であるべき**です。そして人件費削減の重要性を強く主張していた市長は、公約達成のため**市職員数の削減・給与水準の見直しに取り組むべき**です。今後も公務員人事改革について取り組んで参ります。

！」って言っている女教師みたいなことを言うなあ・・・と揶揄しています。こちらについても女性や学校教員を侮辱する内容であり、決して許すことのできない問題発言です。

こうした市長の自覚を欠いた発言は各紙新聞やテレビに大きく取り上げられ、市政への混乱や市民へ多大なご迷惑をお掛けする結果となりました。この問題発言を重く捉えた議会は、定例会の最終日に今村市長に対して「**市長に発言及びブログ表現の撤回や謝罪等を求める決議**」を全会一致で可決しました。これで**今村市長への政治姿勢に対する決議は3件目**となります。私は今村市長に対してこの問題発言に関連する質問を行いました。結果として今村市長は今回の件についてブログ内の女性議員を侮辱した表現の修正は行ったものの、**撤回や謝罪は一切行っていません。**

こどもたちに自身の失敗による経験を伝えたいのであれば、**今回の件は素直に謝罪をすることが取るべき市長の行動**ではないでしょうか。今後の西宮市政に及ぼす悪影響を懸念します。

定期掲載のはまぐちコラムは掲載枠の都合で今回はお休みとさせていただきます。



市政報告No.6 2017年1月
無所属 保守系 会派・せんしん

街の声を大切にす身近な政治を目指して

西宮市議会議員 ひとし
はまぐち仁士

苦楽園で生まれ育った2児の父親。皆さんの目線で街の声を市政に届けます。



<プロフィール>1972年6月西宮生まれ。既婚2児の父。市立大社幼稚園、市立苦楽園小学校、市立苦楽園中学校、兵庫県立西宮甲山高等学校卒業。神戸ベイシェラトンのオープニングスタッフ等を経て1998年に松原町にて「Cafe&Bar savro(三郎)」、2000年に西宮浜にて「Trattoria & Cafe COMODO」をオープン。2014年西宮市長選挙でスタッフとして活動後、政治家私設秘書に就任。2014年9月末で秘書業務とすべての店舗を撤退して政治活動を開始。2015年4月に行われた西宮市議会議員選挙にて1983名からのご信託を頂き初当選。

TEL:090-8167-8136 Mail:h.hamaguchi0602@gmail.com
http://goo.gl/pEHp1 http://h-hamaguchi.sakura.ne.jp/wordpress/

はまぐち仁士 検索

★はまぐち仁士とお話しませんか？カフェミーティングのお知らせ★

カフェミーティングは地域の声をお聞きするのが目的です。お手数ではありますが、参加をご希望の方は**Mailにてお申し込み**をお願いします！
◆第5回：2月7日(火) 時間：午前10時から 場所：夙川トリニティ(西宮市相生町6-1 2-3F 阪急夙川駅すぐ)*お子様とご一緒での参加でも構いません。参加費は無料です。(但しお食事やお飲物は各自でご精算となります) *ランチを食べながら行うミーティングです！お気軽にご参加ください！
*お申し込みはこちらから→h.hamaguchi0602@gmail.comまたは**はまぐち仁士公式HPのお問い合わせフォーム**よりお願いします。

★一緒に公園を綺麗にしませんか？定期清掃活動のお知らせ★

公園清掃を一緒にしませんか？下記の日程で公園清掃を行います。清掃を行いながら公園のあり方などをお話したいと考えています。
◆1月29日(日) 松谷公園 ◆2月4日(土) 深谷公園 ◆2月12日(日) 樋之池公園 ◆2月18日(土) 松ヶ丘公園
(ごみ拾いは午前10時から1時間程度を予定しています。ご参加いただける方は当日指定の公園までお越しください。雨天は中止となります。)



【表紙デザイン】<タイトル>「躍動する」 <制作>志方弥公(しかたみさと)

聴覚に障害を持っている絵描き。2015年渋谷東急百貨店東横店内に巨大壁画、2016年東急プラザ銀座3FにあるHINKARINKA1stフィッティングルーム巨大壁画を担当。きせきのいのち絵本を無料配布活動もしている。志方弥公(しかたみさと)公式HP：<http://cotton-story.com/misatoshikata/>

*表紙デザインは西宮市の文化振興を目的に、西宮ゆかりのアーティストが絵を描いています。

発行者：西宮市議会議員 はまぐち仁士

市は流動的な保育ニーズを積極的に把握する必要があります！

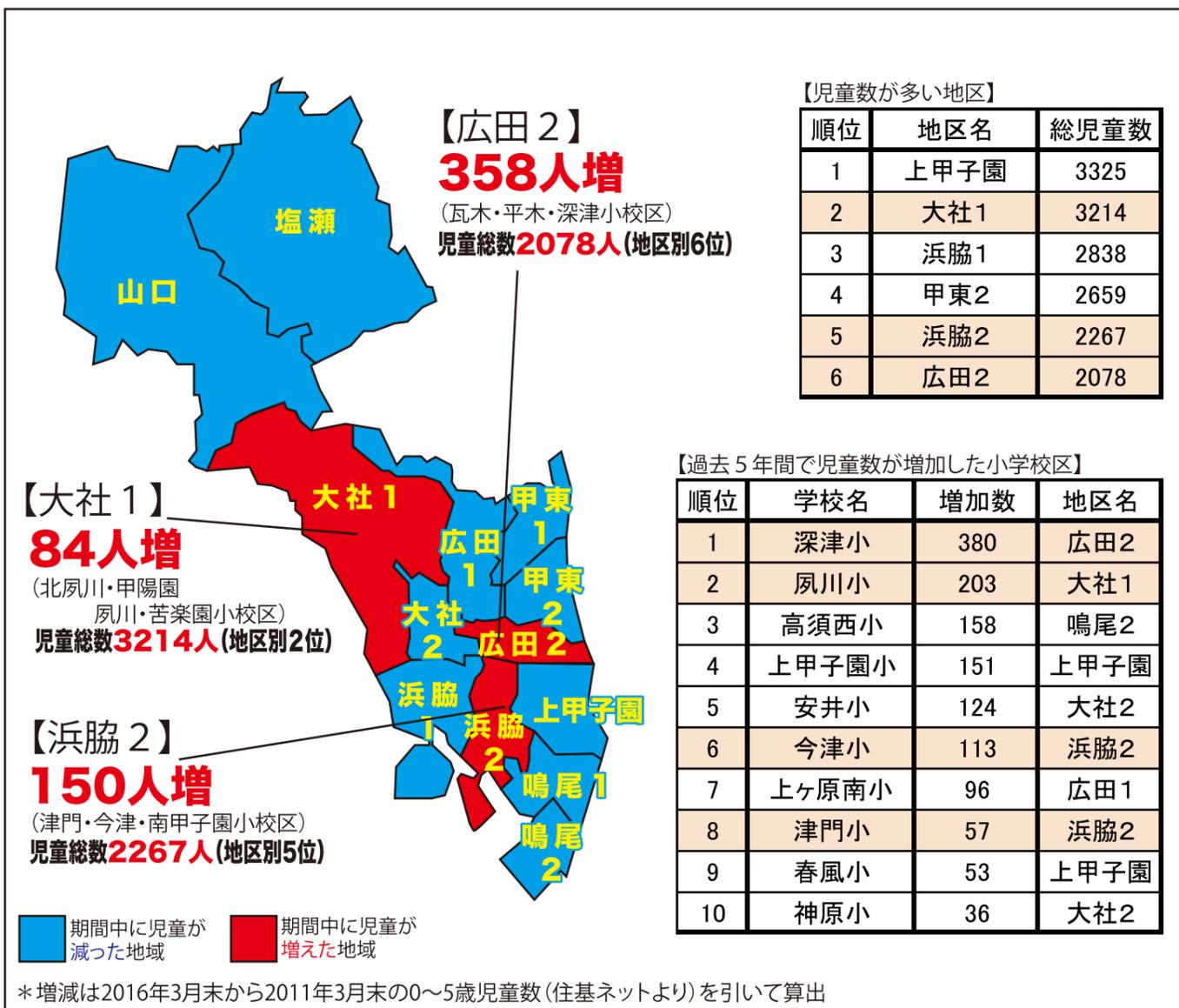
全国的に話題となっている保育所の待機児童が西宮市でも大きな問題であることは言うまでもありません。実際大社1地区と大きく重なる苦楽園中学校区でも保育所の数が足りず、多くの待機児童が発生しています。一方で西宮市内の幼稚園への入園児童数は年々微減傾向にあります。主な原因としては、保育ニーズの増加によって幼稚園への入園希望者が減っていることや、一部地域ではこどもの数が減っていることなどが挙げられます。しかし大社1地区など一部の未就学児童が増加している地域では、保育需要だけでなく幼稚園需要も高まっている可能性があります。

子育てを行う保護者が利用を希望する施設には働く保護者のための保育所だけでなく、3年制の私立幼稚園・2年制の市立幼稚園など、多くのものが存

在します。子育て施設それぞれの需要を地域ごとに正確に把握したり、将来的な予測を行うことが難しく、市は子育て支援の対策に必要な情報収集に苦慮しています。

今後は保育施設を拡充していかなければならない一方で①地域間の子育て人口の変動に対して子育て施設の適切な配置が行われているか？②地域の子育て需要に対して適切に施設が配置されていない場合の対応は？③今後少子化が進む中で子育て施設をどこまで整備するのか？などを検討することが重要であり、その為には出来るだけ早い段階で保護者がどのような子育て環境を希望しているのか、正確な需要を把握する必要があります。対策に必要な情報把握への取り組みについて今後はしっかりと提案して参ります。

【資料】5年間の地域別就学前園児数の増減と校区别増加人数



高齢化が進む坂の多い地域にはコミュニティバスの導入が必要です！

内閣府の高齢者会白書によると、平成27年10月1日現在の全国の人口に占める65歳以上の人の割合は26.7%です。本市の高齢化率は平成27年12月末時点で24.6%と全国平均を2.1ポイント下回っています。しかし町ごとに見ると市内およそ半数の町で全国平均を上回っており、苦楽園小学校区や甲陽園小学校区など登り坂の多い町でも高齢化の比率が高くなっています。また、こうした傾向は今後ますます進むことが確実視されています。

高齢者にとって、普段の生活で大きな課題となるのが交通アクセスの問題です。登り坂の多い地域では、平地と比べて車を移動手段として利用している高齢者が多く、こうした傾向は坂の多い町についても同じです。自転車にも乗れず、徒歩での移動も困難であり、病院や買い物へ行くにも、車がなければ生活に大きな支障をきたします。

一方で、近年では高齢者の運転による車両事故が頻繁に報道されており、大きな社会問題となっています。下の表は兵庫県下及び阪神地区の交通事故件数とその内高齢者ドライバーによる事故件数と比率を表したものです。事故の件数自体は兵庫県下・阪神地区双方で減少傾向にある一方で、高齢者ドライバーによる事故件数の比率は兵庫県下で4.8%増、阪神地区では6.5%増と増加傾向にあります。今後は高齢者の人口が増加することから、この比率はさらに増加する可能性があります。

兵庫県は運転免許を有する高齢者ドライバーに対して、自主的な免許の返納を働きかけています。しかし、例えば高齢者の方が免許を返納する意思があっても、病院への通院や買い物など返納後の交通課題への不安が存在していることから、なかなか実績に結びつかないという課題もあります。

西宮市北部の生瀬地区では、地域のコミュニティバス「ぐるっと生瀬」の本格運行が平成27年10月1日より始まりました。生瀬地区の高齢化率は平成28

年9月現在で29.4%と高く、鉄道やバス停までの移動は急な坂道を上り・下りする必要があることから、平成23年に「生瀬住民のお出かけの足を考える諮問会議」を発足させ、市から派遣された交通専門家のアドバイスを受けながら、地域が主体となって、地域独自の交通課題を議論した上で試験運行などを重ね、この度の本格運行に至りました。

この事業では14人乗りの小型バス1台で運行を実施しており、使用している車両は国と市の補助金によって調達されています。運賃は大人300円、小人200円です。6つのルートで1日合計20便が運行しています。本格運行から1年が経過したこの取り組みの状況は、1日の平均乗車数が83.7名となっており、運賃収入に加え、広告料や国と市からの補助金等で運行しています。

コミュニティバスの導入を実現するためには地域の自主的な努力が必要不可欠ですが、苦楽園中学校区が今後も高齢化が進むことを考慮すればコミュニティバスの導入を今から検討するべきだと考えます。



「ぐるっと生瀬」で運行している14人乗りのコミュニティバス

【資料】兵庫県下と阪神地区の事故件数の推移と高齢者運転の構成比率 資料提供:兵庫県警察本部交通企画課

	兵庫県下	内65歳以上	構成比	阪神地区	内65歳以上	構成比
平成23年	31831	4870	15.3%	8104	1187	14.6%
平成24年	30135	4797	15.9%	7643	1272	16.6%
平成25年	29003	4905	16.9%	7351	1307	17.8%
平成26年	26516	4935	18.6%	6822	1276	18.7%
平成27年	25319	4819	19.0%	6229	1238	19.9%
平成28年10月末	19916	4011	20.1%	4998	1055	21.1%

*阪神地区とは伊丹市、川西市、猪名川町、宝塚市、尼崎市、西宮市、芦屋市、丹波市、篠山市、三田市の10市町を指す。

件数は共に減少 4.8%増加 件数は共に減少 6.5%増加